

## 土用の丑＝うなぎのかば焼き？

土用の丑の日が近づくとつれて、スーパーなどではうなぎのかば焼きを目にする事が多くなります。

夏バテ防止に一役買うスタミナ食材としてすっかりおなじみのうなぎのかば焼き。土用の丑の日とうなぎを食すことは、江戸時代にうなぎ屋の売り上げアップのための宣伝として考えられたのが始まりと言われていて(※)が、栄養豊富なうなぎは、実際に夏バテ予防の食品として適しているようです。

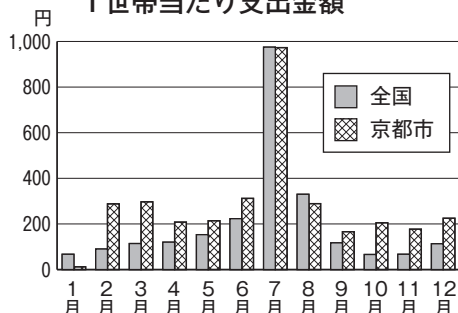
香ばしいにおいに誘われて、この時期に購入される方も多いのではないのでしょうか。

※諸説あります。

平成27年の家計調査(二人以上の世帯)で、全国のうなぎのかば焼きの1世帯当たり支出金額を月別に見ると、7月が最も多く、年間支出金額の40%にも上ることがわかります。(図1)

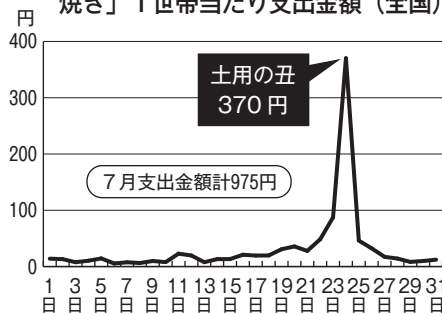
さらに7月の1世帯当たり支出金額を日別に見ると、土用の丑の日(24日)は支出が急増し、1日だけで7月全体の支出金額の38%を占めています(図2)。土用の丑の日とうなぎのかば焼きを食べるという習慣が根付いていることを現しています。

図1 平成27年 月別「うなぎのかば焼き」1世帯当たり支出金額



資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯)」

図2 平成27年7月 日別「うなぎのかば焼き」1世帯当たり支出金額(全国)



資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯)」

表「うなぎのかば焼き」1世帯当たり年間支出金額

都道府県	年間支出金額(円)
全国	2,223
浜松市	5,514
京都市	3,705
名古屋市	3,176
東京都区部	3,141
堺市	3,115
大阪市	3,112
金沢市	3,100
大津市	2,966
川崎市	2,767
奈良市	2,754

注：都道府県庁所在地、川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市の平成25年～27年平均結果

資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯)」

京都市は全国平均に比べて、うなぎのかば焼きに対する1世帯当たり支出金額が多く、都道府県庁所在地・政令指定都市中では、浜松市に次いで2位という結果となっています。(表)

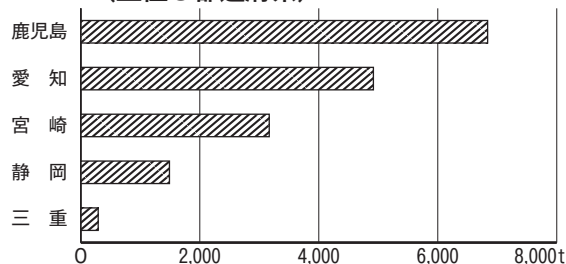
うなぎの養殖業収穫量を都道府県別にみると、鹿児島県、愛知県、宮崎県などが多く、必ずしも生産地での支出金額が多いとは言えないようです。(図3)

夏も本番。つつい冷たい飲み物や食べ物を口にしてみたい、食が細がちです。

“これを食べると夏バテしない”という夢のような食材はありませんが、日本の食文化を大切にしながら、暑い夏を乗り切りましょう。



図3 平成26年 うなぎの養殖業収穫量(上位5都道府県)



資料：農林水産省「海面漁業生産統計調査」